

令和3年度
放射線対策委託費
(被ばく傷病者への対応のための研修) 事業
実施報告書

令和4年3月

公益財団法人 原子力安全研究協会

本報告書は、原子力規制庁委託事業による委託業務として、公益財団法人原子力安全研究協会が実施した令和3年度放射線対策委託費（被ばく傷病者への対応のための研修）事業の成果をとりまとめたものです。

目 次

| | |
|--------------------|----|
| 第1章 はじめに | 1 |
| 第2章 実施内容 | 2 |
| 2.1 開催内容 | 2 |
| 2.1.1 群馬県高崎市 | 2 |
| 2.1.2 大分県大分市 | 5 |
| 2.1.3 山梨県昭和町 | 8 |
| 第3章 おわりに | 11 |
| 添付資料 | |
| 1. アンケート集計結果 | 15 |
| 2. 研修実施状況 | 35 |

第1章 はじめに

放射性同位元素等の規制に関する法律においては、法令改正（平成30年4月1日付施行、令和元年9月1日施行）に伴い、事故が発生した際に放射線業務従事者に重篤な確定的影響が生じうる事業者を対象に、同法施行規則第21条第1項第14号ホの規定に基づき、事業者は都道府県警察、消防機関及び医療機関その他の関係機関との連携が新たに求められている。

本研修は、放射性同位元素等を取り扱う施設（以下、「RI取扱施設」とする。）において被ばく・汚染傷病者等が発生した際に、医療関係者、搬送関係者、事業者等が、必要な医療及び搬送対応等を迅速かつ的確に対応できるようにすることを目的としている。

第2章 実施内容

今年度は群馬県高崎市、大分県大分市、山梨県昭和町（開催日順）の3箇所に所在する事業所を対象に研修会を実施した。医療関係者・搬送関係者にとって、放射性同位元素等の規制に関する法律第21条第1項の規定に基づき作成する放射線障害予防規定において、放射線同位元素等の規制に関する法律施行規則第21条第1項第14号に規定する応急の措置を講ずるために必要な事項について定められることとされている許可届出使用者が近隣に所在していることの認識が低くいため、研修会の初めに事業所の紹介を追加することとした。また当初の計画では、会議室に受講者一同を参集した対面形式での研修会を検討していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を考慮し、オンライン形式で実施した。オンライン形式では、受講者同士の意見交換をする時間を設けることが困難であるため、グループディスカッションの時間を設けることで補うこととした。

開催内容等の詳細については以下のとおりである。

2.1 開催内容

2.1.1 群馬県高崎市

- (1) 日 時：令和3年11月29日（月）9：30～16：30
- (2) 対象事業所：国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構量子ビーム科学部門
高崎量子応用研究所
ラジエ工業株式会社
- (3) 受講者：37名（医療関係者3名、搬送関係者30名、事業者4名）
- (4) プログラム

| | | | |
|-------|---|-------|--|
| 9：30 | ～ | 9：40 | 開会 |
| 9：40 | ～ | 10：00 | 講義1 事業所の紹介 説明者：高崎量子応用研究所 担当者 ラジエ工業 担当者 |
| 10：00 | ～ | 10：55 | 講義2 放射線の基礎知識及び健康影響 講 師：山本 尚幸（原子力安全研究協会） |
| 10：55 | ～ | 11：00 | 質疑応答 |
| 11：00 | ～ | 11：10 | 休憩 |
| 11：10 | ～ | 11：40 | 講義3 放射性同位元素等規制法における基準等 講 師：山本 尚幸（原子力安全研究協会） |
| 11：40 | ～ | 11：45 | 質疑応答 |
| 11：45 | ～ | 12：15 | 講義4 原子力災害時における医療体制 講 師：富永 隆子（量子科学技術研究開発機構） |
| 12：15 | ～ | 12：20 | 質疑応答 |
| 12：20 | ～ | 13：20 | 休憩 |
| 13：20 | ～ | 13：50 | 実習1 放射線測定器及び個人線量計の取扱い 講 師：山本 尚幸（原子力安全研究協会） |
| 13：50 | ～ | 14：00 | 休憩 |

14:00 ～ 15:00 実習 2

1) <共通>緊急被ばく医療と RI 取扱施設での放射線事故
講 師：山本 尚幸（原子力安全研究協会）

2-1) <医療コース>医療機関における被ばく・汚染傷病者の対応

講 師：山本 尚幸（原子力安全研究協会）

2-2) <搬送コース>被ばく・汚染傷病者の搬送対応

講 師：高野 甲子雄（原子力安全研究協会）

15:00 ～ 15:10 休憩

15:10 ～ 16:10 グループディスカッション

～被ばく傷病者が発生した場合の連携～

ファシリテーター：山本 尚幸（原子力安全研究協会）

協力者：高野 甲子雄（原子力安全研究協会）

富永 隆子（量子科学技術研究開発機構）

長谷川 有史（福島県立医科大学）

16:10 ～ 16:20 質疑応答

16:20 ～ 16:25 講評

16:25 ～ 16:30 アンケート記入、閉会

(5) 講義内容

1) 講義 1 事業所の紹介

高崎量子応用研究所及びラジエ工業の各担当者より、事業所の紹介として事業概要や取り扱っている放射性同位元素等の種類、起こり得る放射線事故等について説明された。

2) 講義 2 放射線の基礎知識及び健康影響

山本講師より放射線の特性や身の回りの放射線、人体への影響、放射線防護等について説明された。

3) 講義 3 放射性同位元素等規制法における基準等

山本講師より放射線同位元素や放射線発生装置の規制に関する法体系や概要等について説明された。

4) 講義 4 原子力災害時における医療体制

基幹高度被ばく医療支援センターとなる量子科学技術研究開発機構に所属の富永講師より、被ばく医療や原子力災害に関する医療体制、医療施設での準備、放射線管理要員の役割、搬送の汚染拡大防止等について説明された。

5) 実習 1 放射線測定器及び個人線量計の取扱い

山本講師より個人線量計、GM サーベイメータの取扱いについての説明がされ、GM サーベイメータの測定実習を行った。受講者にも実際に個人線量計、GM サーベイメータを取り扱ってもらうため、事前に測定器及び測定実習用資機材の貸し出しを行った。

6) 実習 2

医療コース・搬送コースの共通内容として、山本講師より緊急被ばく医療と RI 取扱施設での放射線事故について説明がされた。その後、医療コース・搬送コースに分かれて実習を行った。

なお、オンラインでの開催形式では、本実習2を受講者に実施してもらうことは困難であったため、医療コース「医療機関における被ばく・汚染傷病者の対応」では、以下の実習内容を踏まえた被ばく・汚染傷病者の対応例を示す動画を作成し、受講者には、動画を視聴してもらうとともに山本講師より適時ポイントについて説明がされた。搬送コース「被ばく・汚染傷病者の搬送対応」では、以下の実習内容を踏まえた説明用資料を作成し、高野講師より説明された。

また実習2で実際に使用する服装セットやポリエチレン濾紙シート、酢酸ビニールシート、テープ付きポリシート、養生テープについては、受講者側でも実際に試すことができるよう事前に配付した。

【実習内容】

<医療コース>医療機関における被ばく・汚染傷病者の対応

- ①情報収集
- ②処置室の汚染拡大防止措置
- ③装備の着装
- ④処置室での医療スタッフの配置、任務の確認
- ⑤処置室の資機材、医薬品の確認
- ⑥処置室での除染を含む医療処置
- ⑦処置室の汚染管理と処置終了後の対応

<搬送コース>被ばく傷病者の搬送対応

- ①情報収集
- ②出動準備
- ③現場到着
- ④初期評価と対応
- ⑤傷病者の車内収容
- ⑥搬送中の車内対応
- ⑦医師への引継ぎの報告
- ⑧汚染防止措置の解除

7) グループディスカッション～被ばく傷病者が発生した場合の連携～

山本ファシリテーターのもと、事業所にて被ばく傷病者が発生した場合において、事業所・医療機関・搬送機関として、各組織でどのような体制が考えられるか・どのような対応が必要か等について意見交換を行った。適時、搬送機関に関することは高野氏、原子力災害時の医療に関することは、基幹高度被ばく医療支援センターに所属する富永氏、高度被ばく医療支援センターに所属する長谷川氏からも意見が挙げられた。

8) 講評

基幹高度被ばく医療支援センターに所属する富永氏及び高度被ばく医療支援センターに所属する長谷川氏より、研修全体を通じた講評された。

2.1.2 大分県大分市

(1) 日 時：令和4年2月7日（月）9：30～16：30

(2) 対象事業所：旭化成メディカル株式会社

(3) 受講者：30名（医療関係者6名、大分県2名、事業者22名）

受講者の他、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの受講環境を整えることができなくなった大分市消防局（1部3署2分署9出張所、計15箇所）から、通常業務と並行して100名程度が部分的に聴講された。

(4) プログラム

- | | | | |
|-------|---|-------|--|
| 9：30 | ～ | 9：40 | 開会 |
| 9：40 | ～ | 10：00 | 講義1 事業所の紹介 説明者：旭化成メディカル 担当者 |
| 10：00 | ～ | 10：55 | 講義2 放射線の基礎知識及び健康影響 講 師：山本 尚幸（原子力安全研究協会） |
| 10：55 | ～ | 11：00 | 質疑応答 |
| 11：00 | ～ | 11：10 | 休憩 |
| 11：10 | ～ | 11：40 | 講義3 放射性同位元素等規制法における基準等 講 師：米原 英典（原子力安全研究協会） |
| 11：40 | ～ | 11：45 | 質疑応答 |
| 11：45 | ～ | 12：15 | 講義4 原子力災害時における医療体制 講 師：宇佐 俊郎（長崎大学） |
| 12：15 | ～ | 12：20 | 質疑応答 |
| 12：20 | ～ | 13：20 | 休憩 |
| 13：20 | ～ | 13：50 | 実習1 放射線測定器及び個人線量計の取扱い 講 師：武田 聡司（相模原病院） |
| 13：50 | ～ | 14：00 | 休憩 |
| 14：00 | ～ | 15：00 | 実習2 1) <共通>緊急被ばく医療とRI取扱施設での放射線事故 講 師：山本 尚幸（原子力安全研究協会） 2-1) <医療コース>医療機関における被ばく・汚染傷病者の対応 講 師：山本 尚幸（原子力安全研究協会） 2-2) <搬送コース>被ばく・汚染傷病者の搬送対応 講 師：高野 甲子雄（原子力安全研究協会） |
| 15：00 | ～ | 15：10 | 休憩 |
| 15：10 | ～ | 16：10 | グループディスカッション ～被ばく傷病者が発生した場合の連携～ ファシリテーター：山本 尚幸（原子力安全研究協会） 協力者：高野 甲子雄（原子力安全研究協会） 奥野 浩二（長崎大学） 武田 聡司（相模原病院） |
| 16：10 | ～ | 16：20 | 質疑応答 |

16:20 ~ 16:25 講評

16:25 ~ 16:30 アンケート記入、閉会

(5) 講義内容

1) 講義 1 事業所の紹介

旭化成メディカルの担当者より、事業所の紹介として事業概要や取り扱っている放射性同位元素等の種類、起こり得る放射線事故等について説明された。

2) 講義 2 放射線の基礎知識及び健康影響

山本講師より放射線の特性や身の回りの放射線、人体への影響、放射線防護等について説明された。

3) 講義 3 放射性同位元素等規制法における基準等

米原講師より放射線同位元素や放射線発生装置の規制に関する法体系や概要等について説明された。

4) 講義 4 原子力災害時における医療体制

高度被ばく医療支援センターとなる長崎大学に所属する宇佐講師より、被ばく医療や原子力災害に関する医療体制、医療施設での準備、放射線管理要員の役割、搬送の汚染拡大防止、原子力災害・放射線事故事例等について説明された。

5) 実習 1 放射線測定器及び個人線量計の取扱い

武田講師より個人線量計、GM サーベイメータの取扱いについての説明がされ、GM サーベイメータの測定実習を行った。受講者にも実際に個人線量計、GM サーベイメータを取り扱ってもらうため、事前に測定器及び測定実習用資機材の貸し出しを行った。

6) 実習 2

医療コース・搬送コースの共通内容として、山本講師より緊急被ばく医療と RI 取扱施設での放射線事故について説明がされた。その後、医療コース・搬送コースに分かれて実習を行った。

なお、オンラインでの開催形式では、本実習 2 を受講者に実施してもらうことは困難であったため、医療コース「医療機関における被ばく・汚染傷病者の対応」では、以下の実習内容を踏まえた被ばく・汚染傷病者の対応例を示す動画を作成し、受講者には、動画を視聴してもらうとともに山本講師より適時ポイントについて説明がされた。搬送コース「被ばく・汚染傷病者の搬送対応」では、以下の実習内容を踏まえた説明用資料を作成し、高野講師より説明された。

また実習 2 で実際に使用する服装セットやポリエチレン濾紙シート、酢酸ビニールシート、テープ付きポリシート、養生テープについては、受講者側でも実際に試すことができるよう事前に配付した。

【実習内容】

<医療コース>医療機関における被ばく・汚染傷病者の対応

- ①情報収集
- ②処置室の汚染拡大防止措置
- ③装備の着装
- ④処置室での医療スタッフの配置、任務の確認
- ⑤処置室の資機材、医薬品の確認

- ⑥処置室での除染を含む医療処置
- ⑦処置室の汚染管理と処置終了後の対応

<搬送コース>被ばく傷病者の搬送対応

- ①情報収集
- ②出動準備
- ③現場到着
- ④初期評価と対応
- ⑤傷病者の車内収容
- ⑥搬送中の車内対応
- ⑦医師への引継ぎの報告
- ⑧汚染防止措置の解除

7) グループディスカッション～被ばく傷病者が発生した場合の連携～

山本ファシリテーターのもと、事業所にて被ばく傷病者が発生した場合において、事業所・医療機関・搬送機関として、各組織でどのような体制が考えられるか・どのような対応が必要か等について意見交換を行った。適時、搬送機関に関することは高野氏、原子力災害時の医療に関することは武田氏及び高度被ばく医療支援センターに所属する奥野氏からも意見が挙げられた。

8) 講評

高度被ばく医療支援センターに所属する奥野氏より、研修全体を通じた講評された。

2.1.3 山梨県昭和町

(1) 日 時：令和4年3月3日（木）9：30～16：30

(2) 対象事業所：テルモ株式会社

(3) 受講者：19名（医療関係者8名、搬送関係者8名、事業者3名）

(4) プログラム

- | | | | |
|-------|---|-------|--|
| 9：30 | ～ | 9：40 | 開会 |
| 9：40 | ～ | 10：00 | 講義1 事業所の紹介 説明者：テルモ 担当者 |
| 10：00 | ～ | 10：55 | 講義2 放射線の基礎知識及び健康影響 講 師：山本 尚幸（原子力安全研究協会） |
| 10：55 | ～ | 11：00 | 質疑応答 |
| 11：00 | ～ | 11：10 | 休憩 |
| 11：10 | ～ | 11：40 | 講義3 放射性同位元素等規制法における基準等 講 師：米原 英典（原子力安全研究協会） |
| 11：40 | ～ | 11：45 | 質疑応答 |
| 11：45 | ～ | 12：15 | 講義4 原子力災害時における医療体制 講 師：佐藤 久志（福島県立医科大学） |
| 12：15 | ～ | 12：20 | 質疑応答 |
| 12：20 | ～ | 13：20 | 休憩 |
| 13：20 | ～ | 13：50 | 実習1 放射線測定器及び個人線量計の取扱い 講 師：武田 聡司（相模原病院） |
| 13：50 | ～ | 14：00 | 休憩 |
| 14：00 | ～ | 15：00 | 実習2 1) <共通>緊急被ばく医療とRI取扱施設での放射線事故 講 師：山本 尚幸（原子力安全研究協会） 2-1) <医療コース>医療機関における被ばく・汚染傷病者の対応 講 師：山本 尚幸（原子力安全研究協会） 2-2) <搬送コース>被ばく・汚染傷病者の搬送対応 講 師：高野 甲子雄（原子力安全研究協会） |
| 15：00 | ～ | 15：10 | 休憩 |
| 15：10 | ～ | 16：10 | グループディスカッション ～被ばく傷病者が発生した場合の連携～ ファシリテーター：山本 尚幸（原子力安全研究協会） 協力者：高野 甲子雄（原子力安全研究協会） 佐藤 久志（福島県立医科大学） 小林 圭輔（量子科学技術研究開発機構） 武田 聡司（相模原病院） |
| 16：10 | ～ | 16：20 | 質疑応答 |
| 16：20 | ～ | 16：25 | 講評 |
| 16：25 | ～ | 16：30 | アンケート記入、閉会 |

(5) 講義内容

1) 講義 1 事業所の紹介

テルモの担当者より、事業所の紹介として事業概要や取り扱っている放射性同位元素等の種類、起こり得る放射線事故等について説明された。

2) 講義 2 放射線の基礎知識及び健康影響

山本講師より放射線の特性や身の回りの放射線、人体への影響、放射線防護等について説明された。

3) 講義 3 放射性同位元素等規制法における基準等

米原講師より放射線同位元素や放射線発生装置の規制に関する法体系や概要等について説明された。

4) 講義 4 原子力災害時における医療体制

高度被ばく医療支援センターとなる福島県立医科大学に所属する佐藤講師より、被ばく医療や原子力災害に関する医療体制、院内対応手順の例、医療施設での準備、放射線管理要員の役割、搬送の汚染拡大防止等について説明された。

5) 実習 1 放射線測定器及び個人線量計の取扱い

武田講師より個人線量計、GM サーベイメータの取扱いについての説明がされ、GM サーベイメータの測定実習を行った。受講者にも実際に個人線量計、GM サーベイメータを取り扱ってもらうため、事前に測定器及び測定実習用資機材の貸し出しを行った。

6) 実習 2

医療コース・搬送コースの共通内容として、山本講師より緊急被ばく医療と RI 取扱施設での放射線事故について説明がされた。その後、医療コース・搬送コースに分かれて実習を行った。

なお、オンラインでの開催形式では、本実習 2 を受講者に実施してもらうことは困難であったため、医療コース「医療機関における被ばく・汚染傷病者の対応」では、以下の実習内容を踏まえた被ばく・汚染傷病者の対応例を示す動画を作成し、受講者には、動画を視聴してもらうとともに山本講師より適時ポイントについて説明がされた。搬送コース「被ばく・汚染傷病者の搬送対応」では、以下の実習内容を踏まえた説明用資料を作成し、高野講師より説明された。

また実習 2 で実際に使用する服装セットやポリエチレン濾紙シート、酢酸ビニールシート、テープ付きポリシート、養生テープについては、受講者側でも実際に試すことができるよう事前に配付した。

【実習内容】

<医療コース>医療機関における被ばく・汚染傷病者の対応

- ①情報収集
- ②処置室の汚染拡大防止措置
- ③装備の着装
- ④処置室での医療スタッフの配置、任務の確認
- ⑤処置室の資機材、医薬品の確認
- ⑥処置室での除染を含む医療処置
- ⑦処置室の汚染管理と処置終了後の対応

<搬送コース>被ばく傷病者の搬送対応

- ①情報収集
- ②出動準備
- ③現場到着
- ④初期評価と対応
- ⑤傷病者の車内収容
- ⑥搬送中の車内対応
- ⑦医師への引継ぎの報告
- ⑧汚染防止措置の解除

7) グループディスカッション～被ばく傷病者が発生した場合の連携～

山本ファシリテーターのもと、事業所にて被ばく傷病者が発生した場合において、事業所・医療機関・搬送機関として、各組織でどのような体制が考えられるか・どのような対応が必要か等について意見交換を行った。適時、搬送機関に関することは高野氏、原子力災害時の医療に関することは武田氏及び高度被ばく医療支援センターに所属する佐藤氏、基幹高度被ばく医療支援センターに所属する小林氏からも意見が挙げられた。

8) 講評

高度被ばく医療支援センターに所属する佐藤氏及び基幹高度被ばく医療支援センターに所属する小林氏氏より、研修全体を通じた講評された。

第3章 おわりに

本研修は、RI 取扱施設において被ばく・汚染を伴う傷病者等が発生した際に、医療関係者、搬送関係者、事業者等が、必要な医療及び搬送対応等を迅速かつ的確に対応できるようにすることを目的とし、群馬県高崎市、大分県大分市、山梨県昭和町の3箇所にある事業所を対象に実施した。

研修のアンケート結果*より、群馬県高崎市開催では100%の受講者、大分県大分市開催では96%の受講者、山梨県昭和町開催では95%の受講者が「とても有益」または「有益」と回答したことから、有益性の高い研修であったと言える。その一方で、研修において、RI 取扱施設等で事故発生時に対応できるかの設問に、「対応できない」または「分からない」との回答が多数あったことや「自分がまた参加したい」及び「所属組織の人にも参加させたい」との意見が多数あった。また今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインで開催としたことで多くの受講者に参加してもらえたが、実際に会場等で実習を行いたいとの意見もあった。これらのことから次年度以降も継続して研修を行い知識・技術の維持を図る必要性を感じるとともに、会場へ一堂に会する対面形式と Web 形式を併用した開催が理想的と考える。

なお、今年度はオンラインで開催としたため、事業者・医療関係者・搬送関係者の顔の見える関係を構築することを目的に新たにグループディスカッションの時間を設ける他、連絡先の共有についてのアンケートを任意で実施した。任意であったものの連絡先の共有を承諾してくれる受講者が多く、今後事業所を中心として万が一の事故時に適切な活動が出来る体制・連携作りの第一歩となることが望まれる。

*添付資料1「アンケート集計結果」

添 付 資 料

1. アンケート集計結果
2. 研修実施状況

添付資料 1

アンケート集計結果

各研修会終了後に実施した受講者にアンケートの集計結果は以下のとおり。

1. 群馬県高崎市（令和3年11月29日（月）開催）

(1) 回答数

| 回答数 | 参加者数 | 回収率 |
|-----|------|-----|
| 36 | 37 | 97% |

(2) 所属

| 病院 | 消防 | 関係機関 | その他 | 無回答 | 合計 |
|----|----|------|-----|-----|----|
| 3 | 29 | 2 | 2 | 0 | 36 |

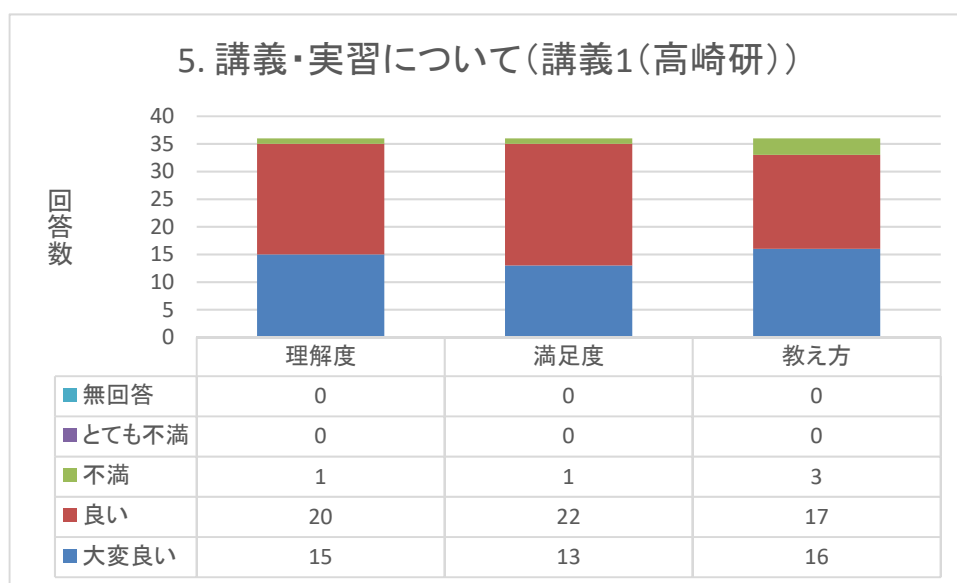
(3) 職種

| 医師 | 看護師 | 診療放射線技師 | 関係機関職員 | 消防士 | 救急救命士 | その他 | |
|-----|-----|---------|--------|-----|-------|-----|--|
| 1 | 1 | 1 | 2 | 13 | 16 | 2 | |
| 無回答 | 合計 | | | | | | |
| 0 | 36 | | | | | | |

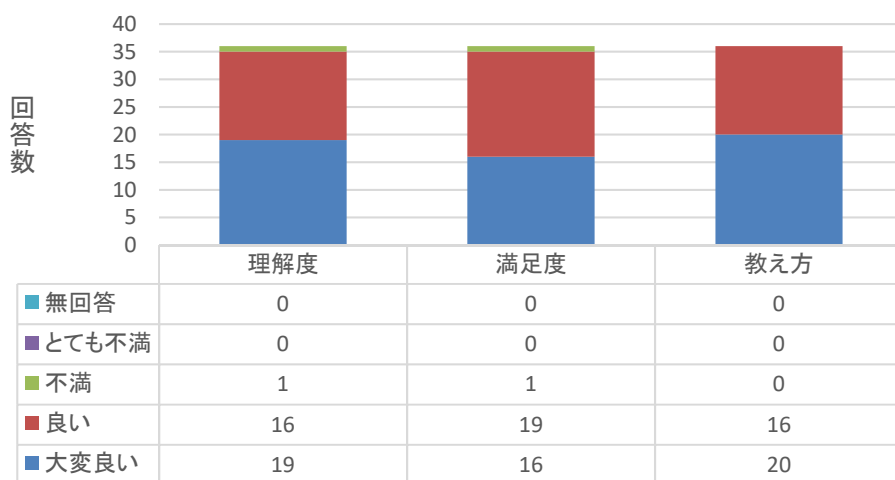
(4) 年齢

| 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 無回答 | 合計 |
|------|------|------|------|------|-----|----|
| 6 | 18 | 8 | 3 | 1 | 0 | 36 |

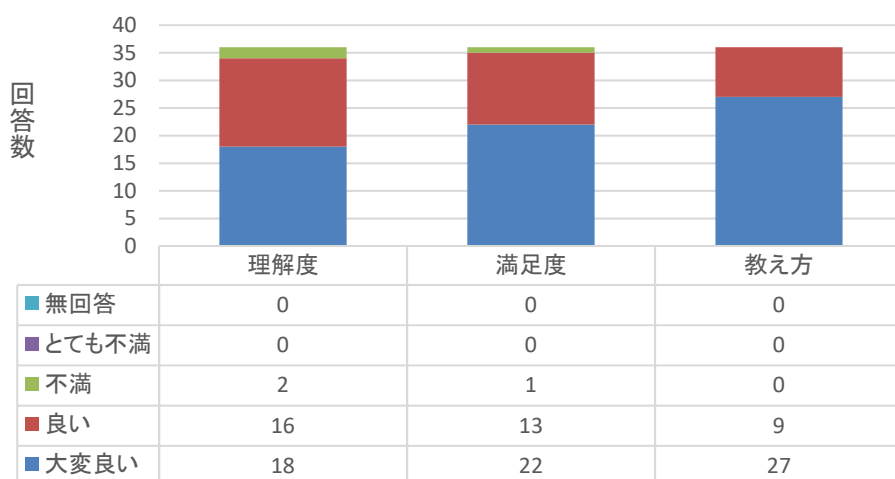
(5) 講義・実習について



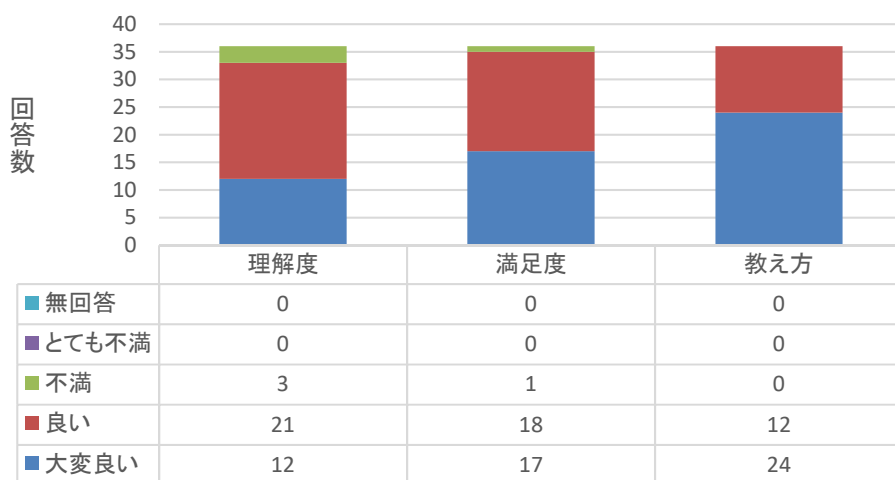
5. 講義・実習について(講義1(ラジエ工業))



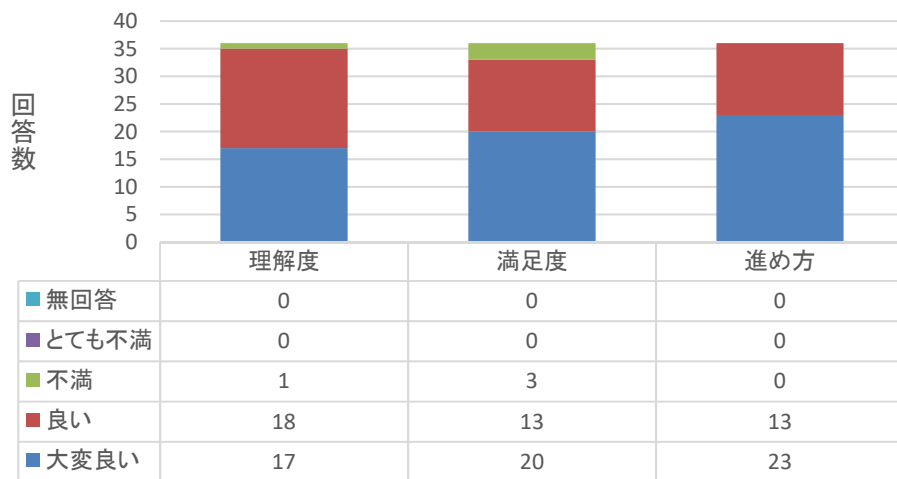
5. 講義・実習について(講義2)



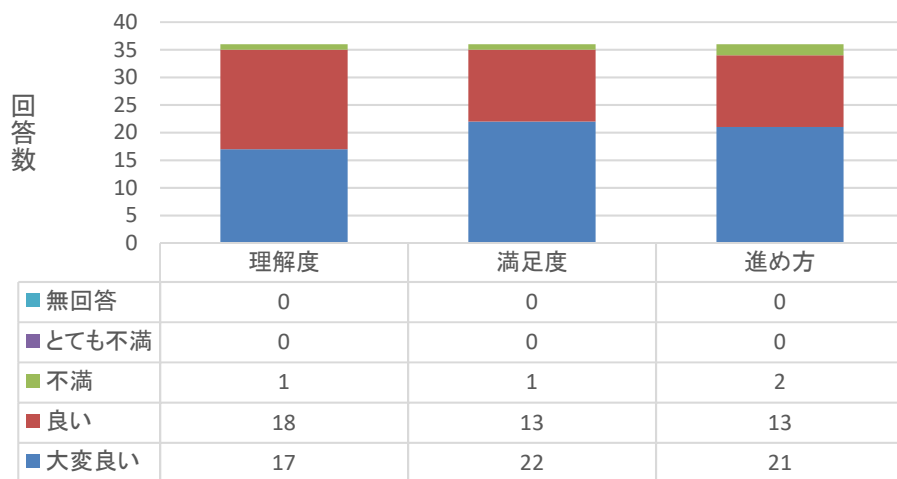
5. 講義・実習について(講義3)



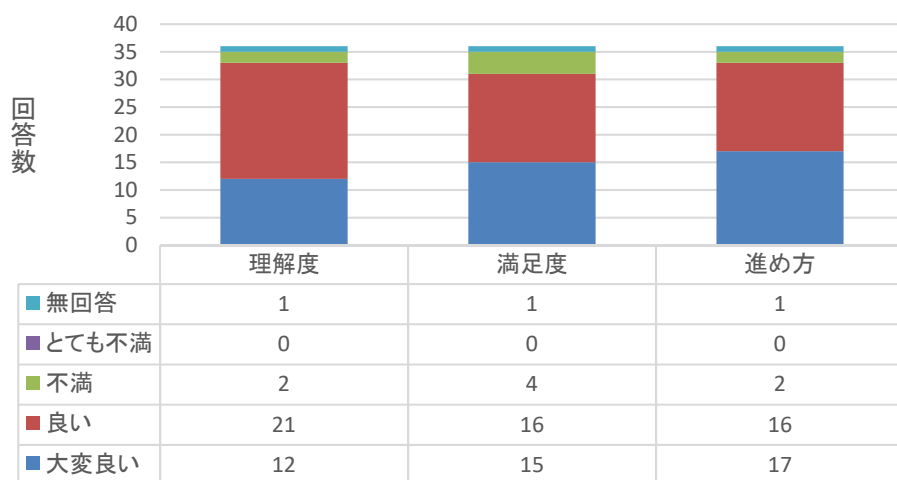
5. 講義・実習について(講義4)

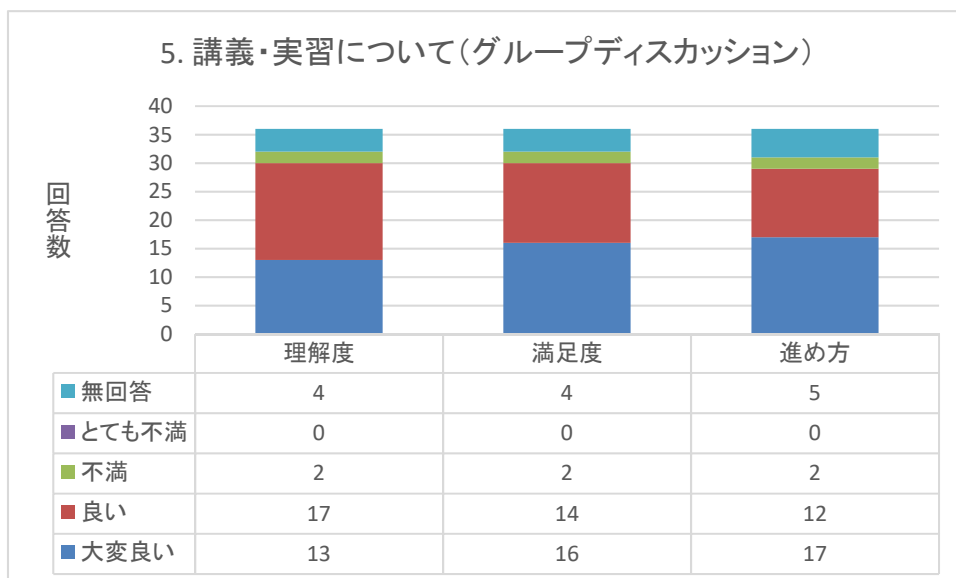


5. 講義・実習について(実習1)

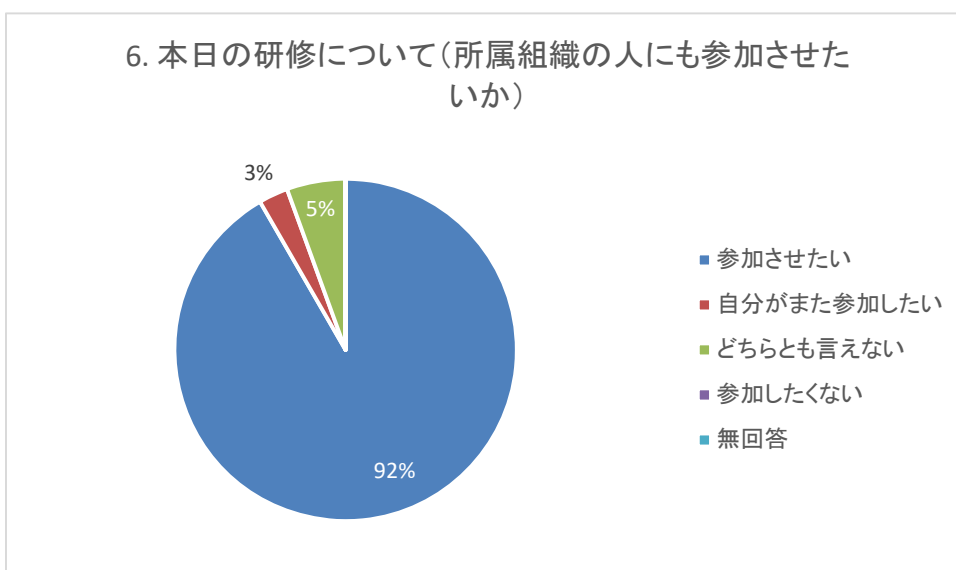
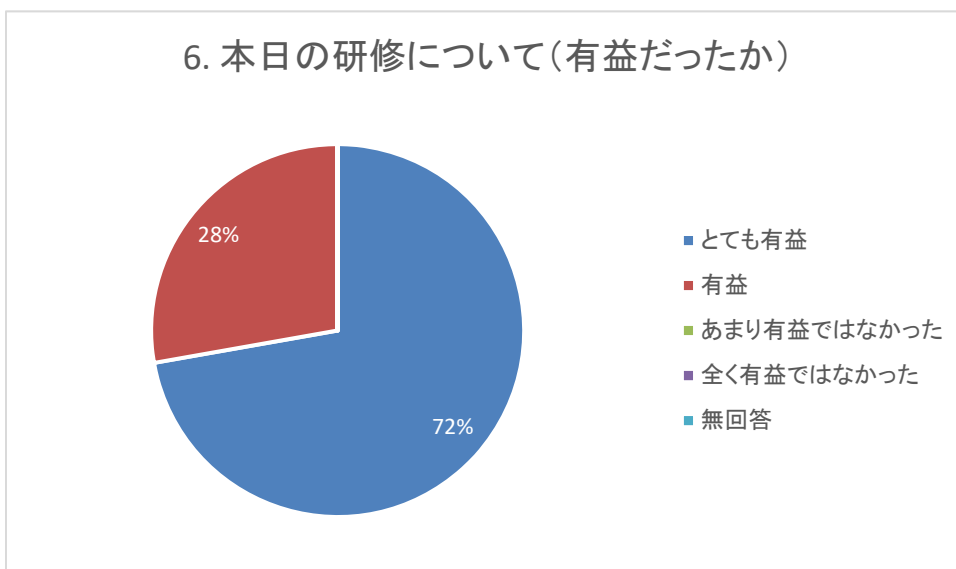


5. 講義・実習について(実習2)

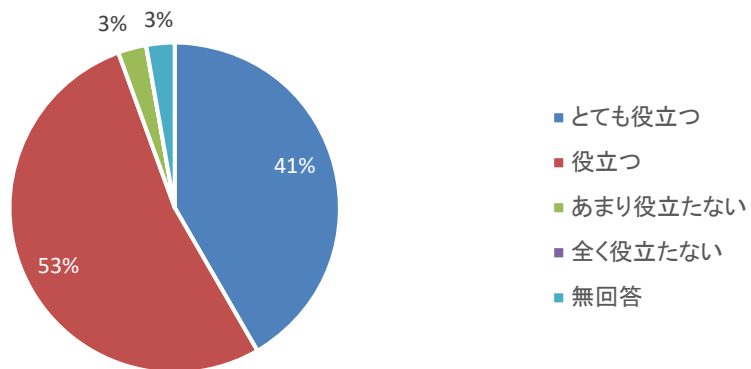




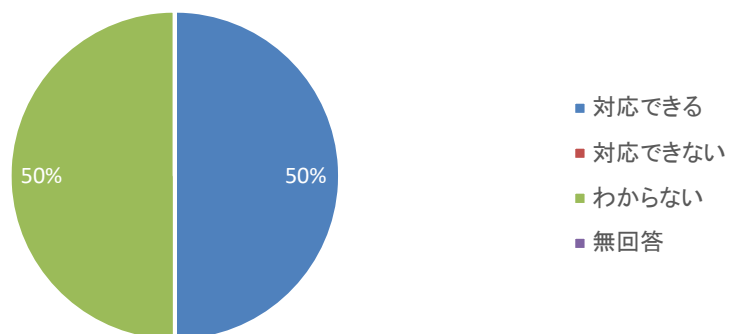
(6) 本日の研修について



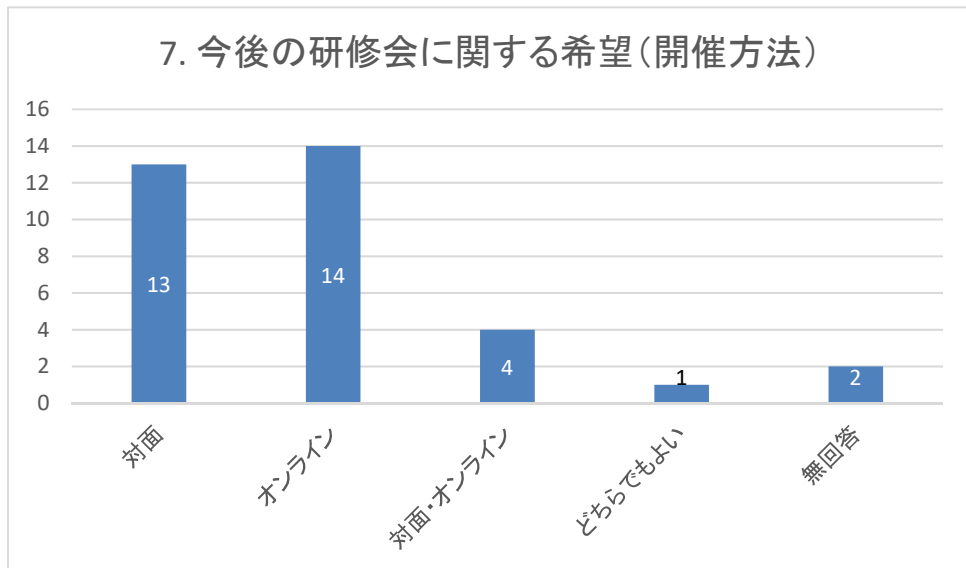
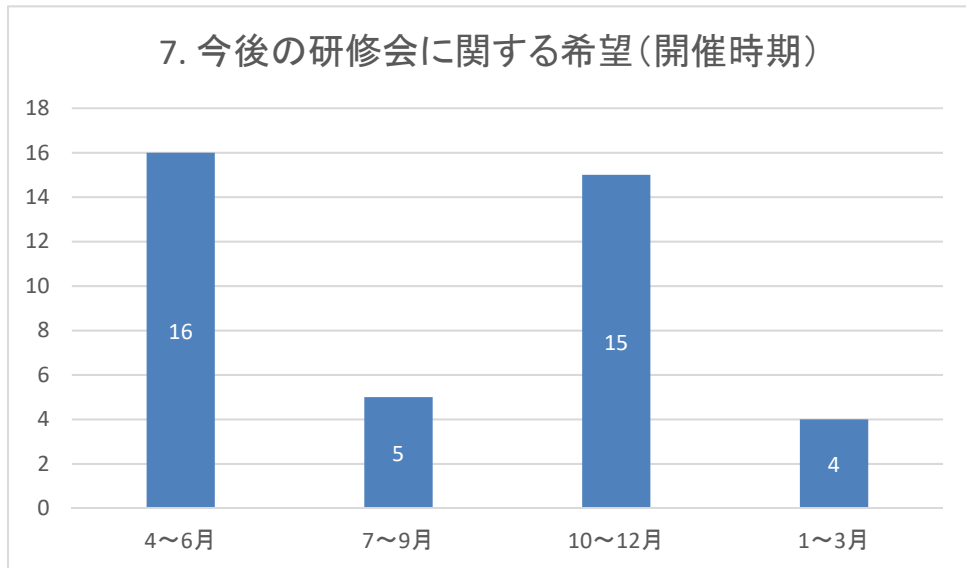
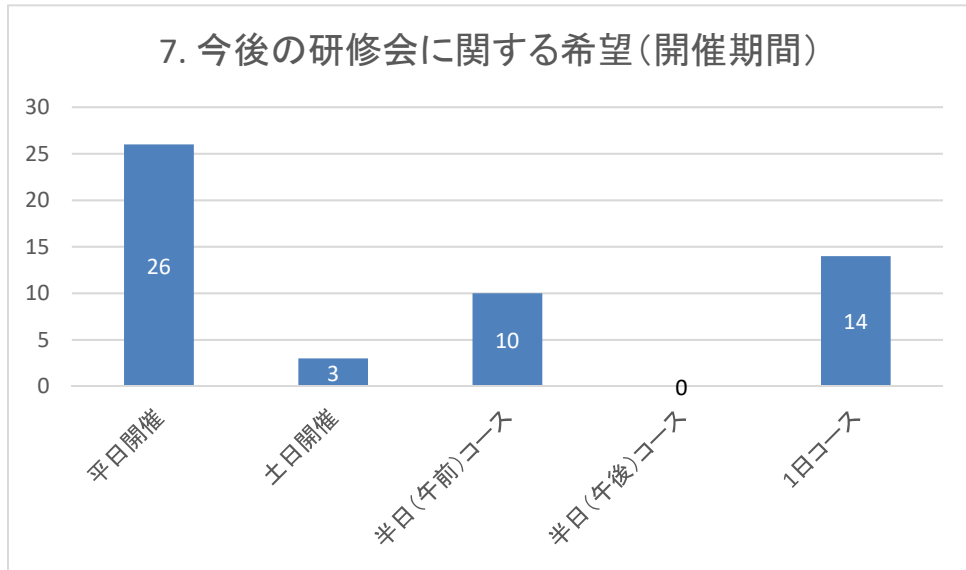
6. 本日の研修について(対応体制構築に役立つか)



6. 本日の研修について(事故発生時に対応できるか)



(7) 研修の開催期間・開催時期・開催方法について（複数回答可）



2. 大分県大分市（令和4年2月7日（月）開催）

(1) 回答数

| 回答数 | 参加者数 | 回収率 |
|-----|------|------|
| 30 | 30 | 100% |

(2) 所属

| 病院 | 消防 | 関係機関 | その他 | 無回答 | 合計 |
|----|----|------|-----|-----|----|
| 6 | 0 | 22 | 2 | 0 | 30 |

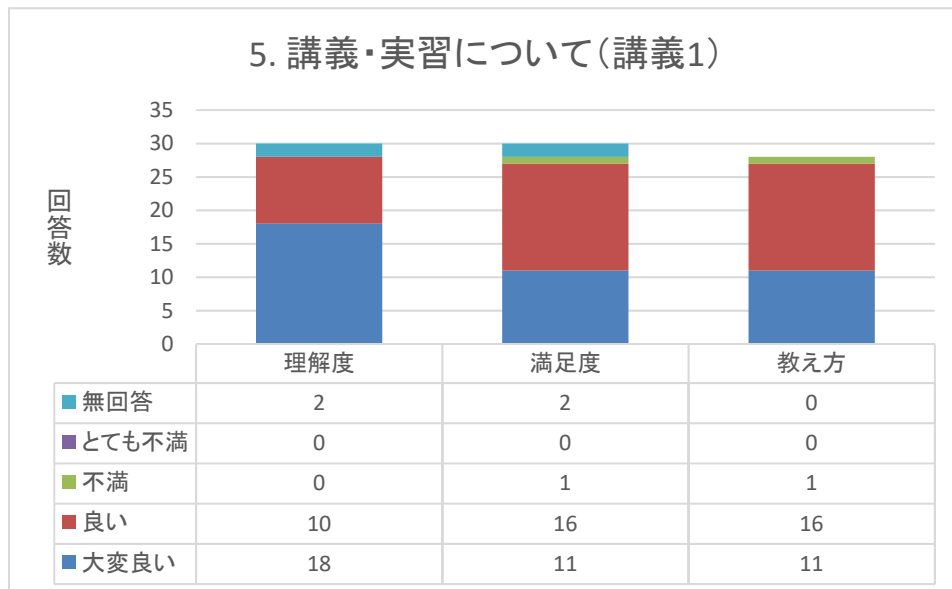
(3) 職種

| 医師 | 看護師 | 診療放射線技師 | 病院事務職員 | 関係機関職員 | その他 | 無回答 |
|----|-----|---------|--------|--------|-----|-----|
| 2 | 4 | 2 | 6 | 3 | 11 | 2 |
| 合計 | | | | | | |
| | | | | | | 30 |

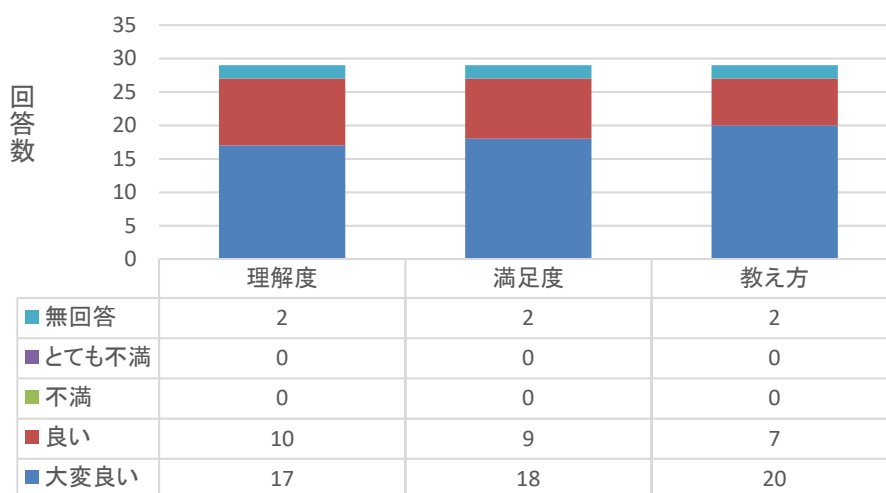
(4) 年齢

| 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 無回答 | 合計 |
|------|------|------|------|------|-----|----|
| 2 | 3 | 11 | 13 | 1 | 0 | 30 |

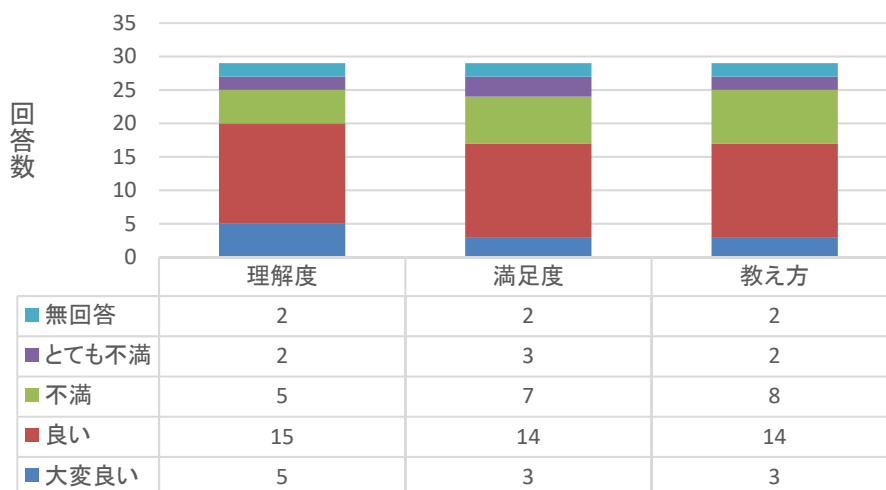
(5) 講義・実習について



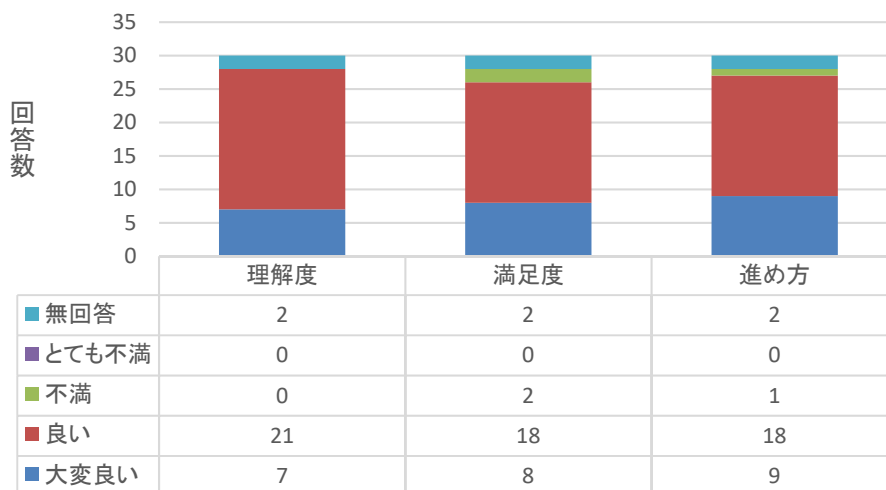
5. 講義・実習について(講義2)



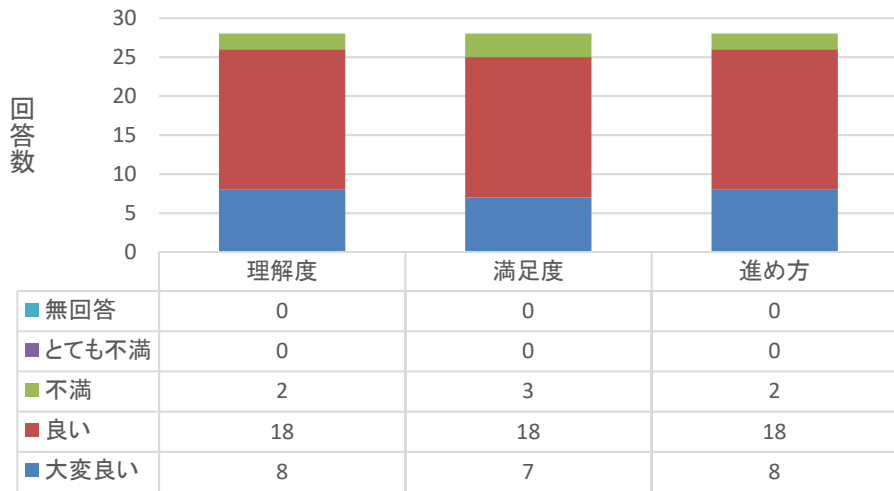
5. 講義・実習について(講義3)



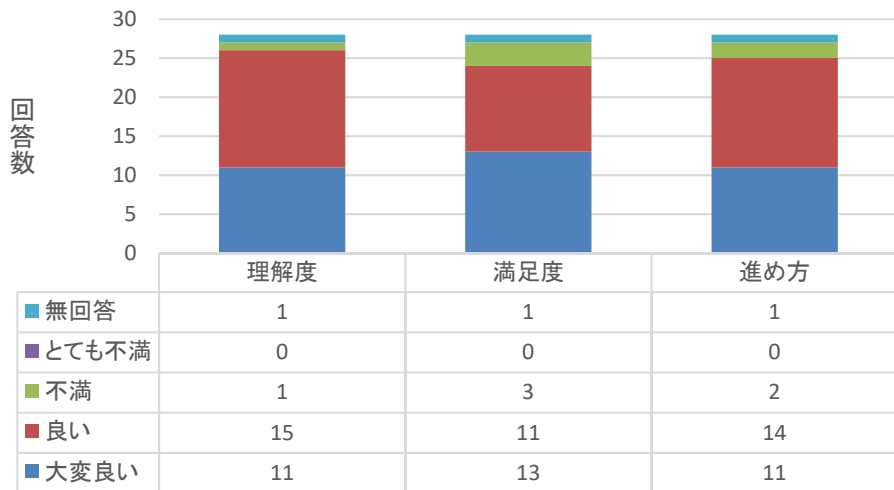
5. 講義・実習について(講義4)



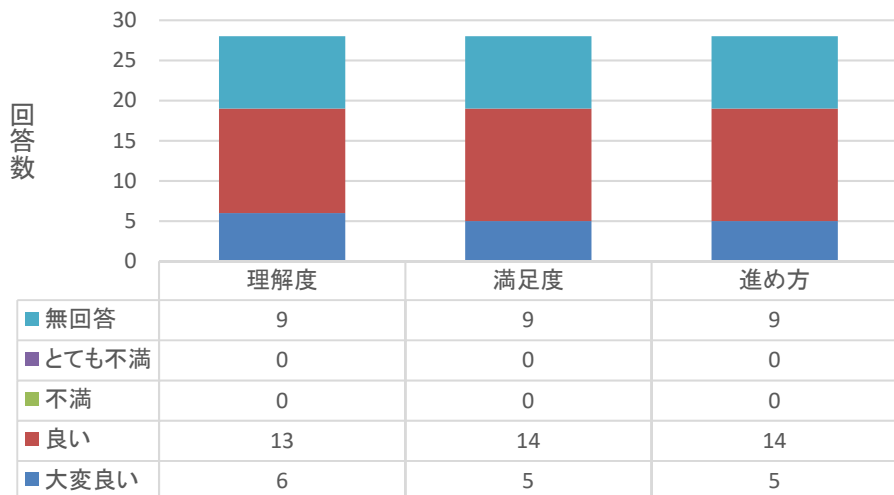
5. 講義・実習について(実習1)



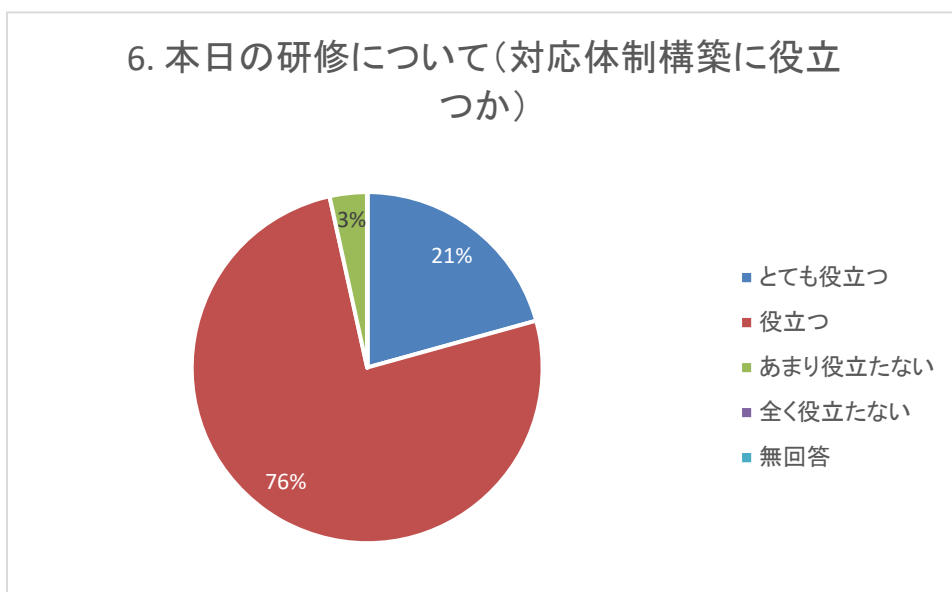
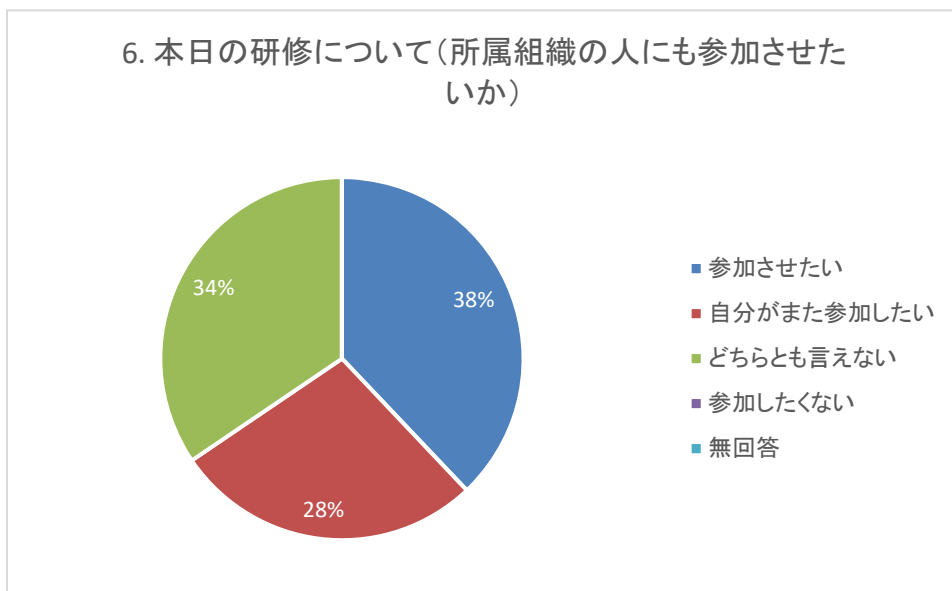
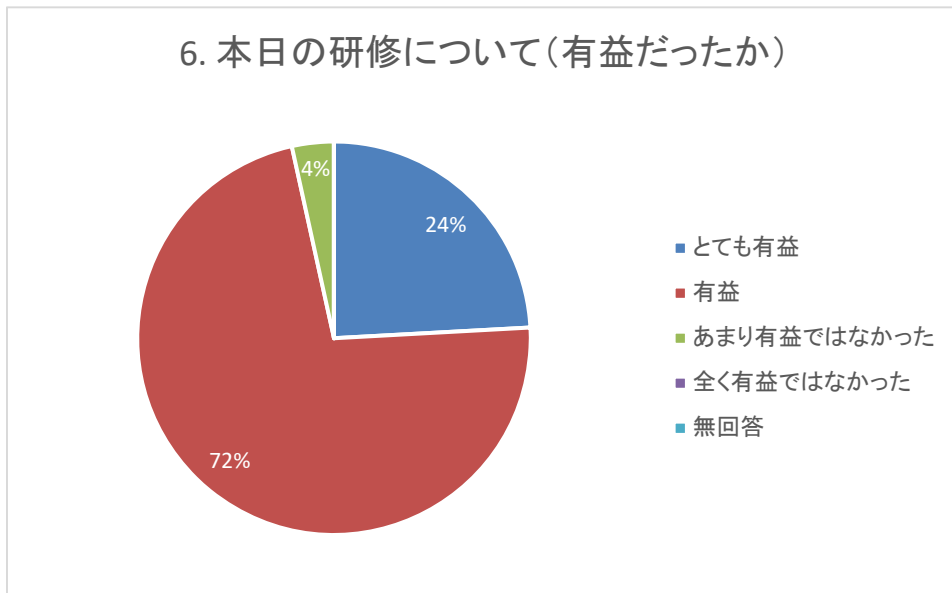
5. 講義・実習について(実習2)



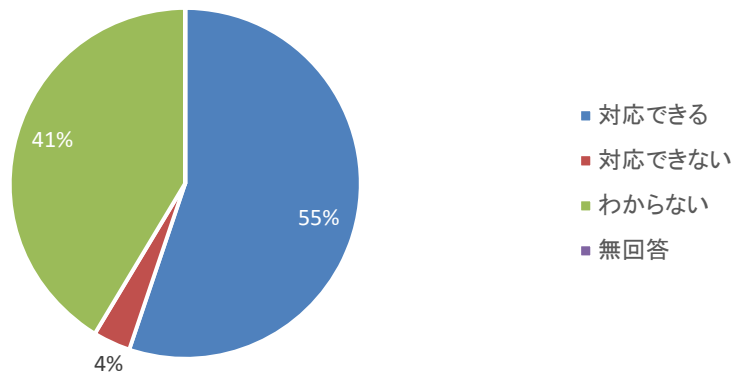
5. 講義・実習について(グループディスカッション)



(6) 本日の研修について

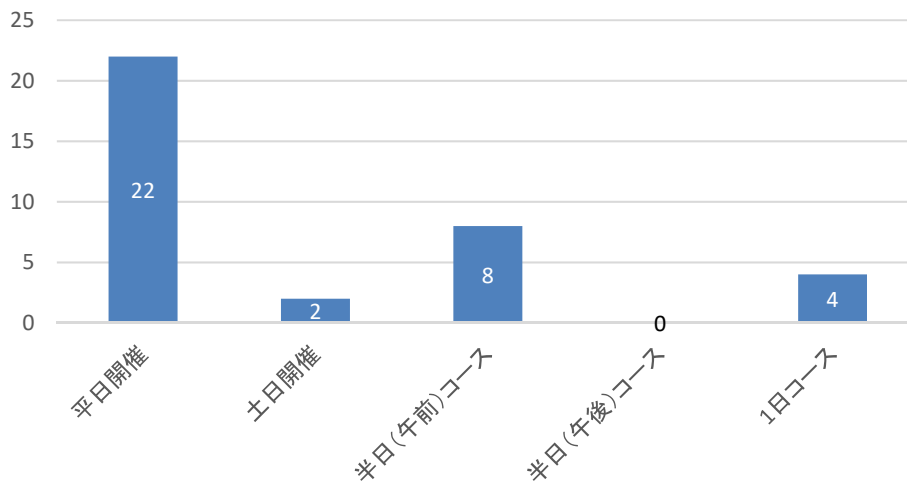


6. 本日の研修について(事故発生時に対応できるか)

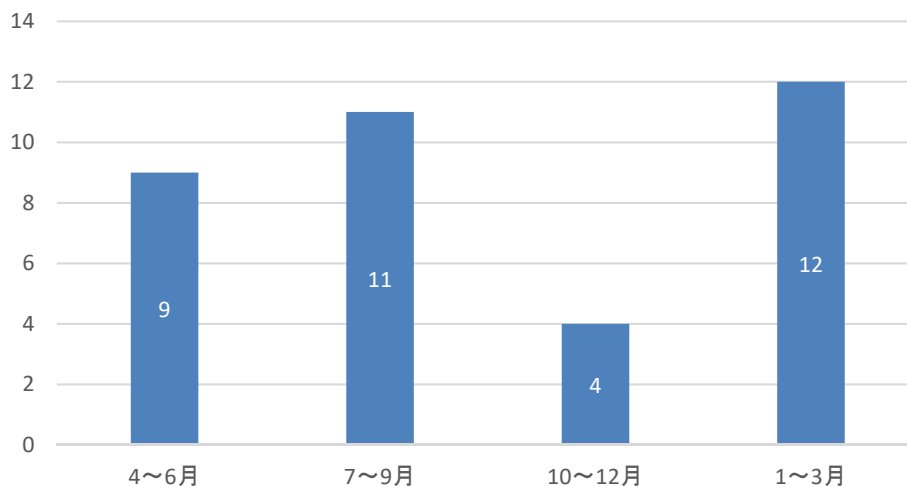


(7) 研修の開催期間・開催時期・開催方法について(複数回答可)

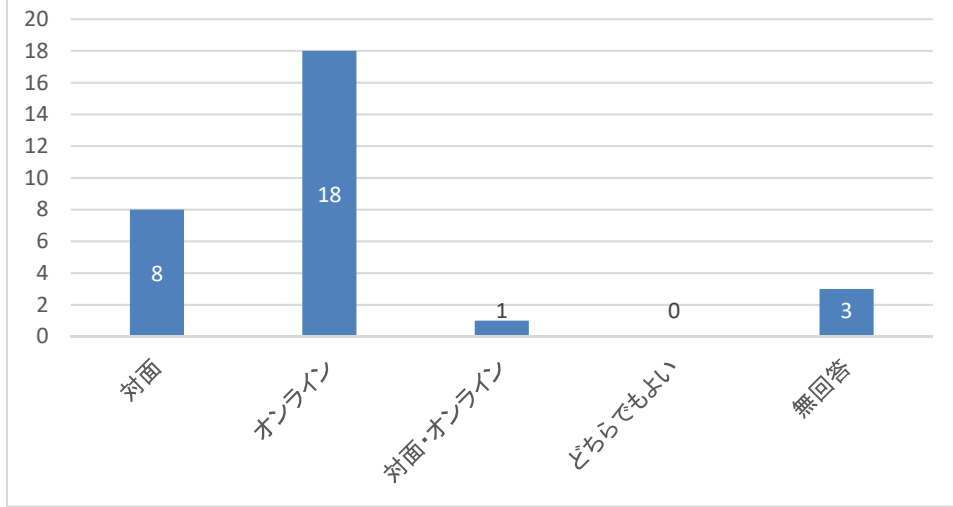
7. 今後の研修会に関する希望(開催期間)



7. 今後の研修会に関する希望(開催時期)



7. 今後の研修会に関する希望(開催方法)



3. 山梨県昭和町（令和4年3月3日（木）開催）

(1) 回答数

| 回答数 | 参加者数 | 回収率 |
|-----|------|------|
| 19 | 19 | 100% |

(2) 所属

| 病院 | 消防 | 関係機関 | 無回答 | 合計 |
|----|----|------|-----|----|
| 8 | 8 | 3 | 0 | 19 |

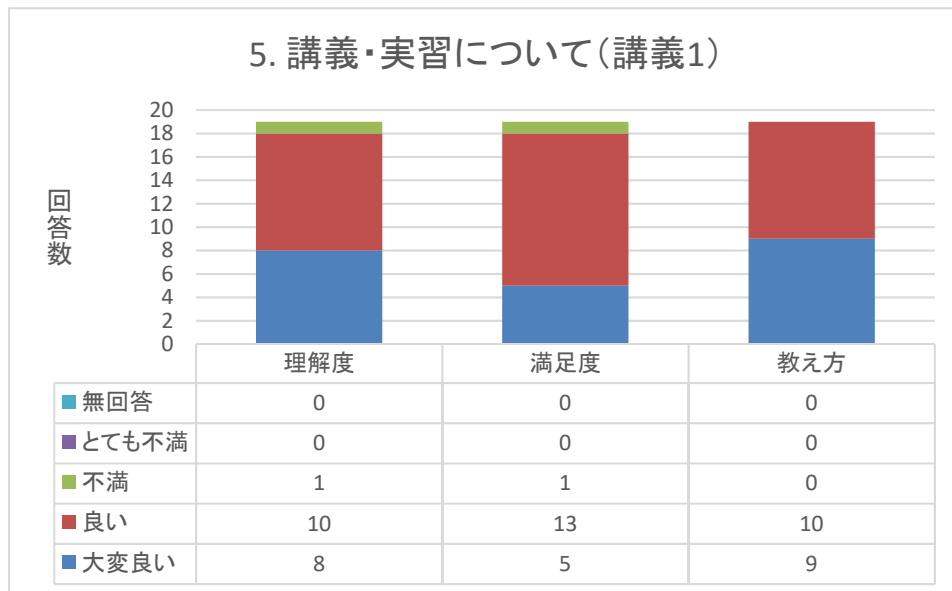
(3) 職種

| 医師 | 看護師 | 診療放射線技師 | 消防士 | 救急救命士 | その他 | 無回答 |
|----|-----|---------|-----|-------|-----|-----|
| 3 | 5 | 2 | 6 | 2 | 1 | 0 |
| 合計 | | | | | | |
| | | | | | | 19 |

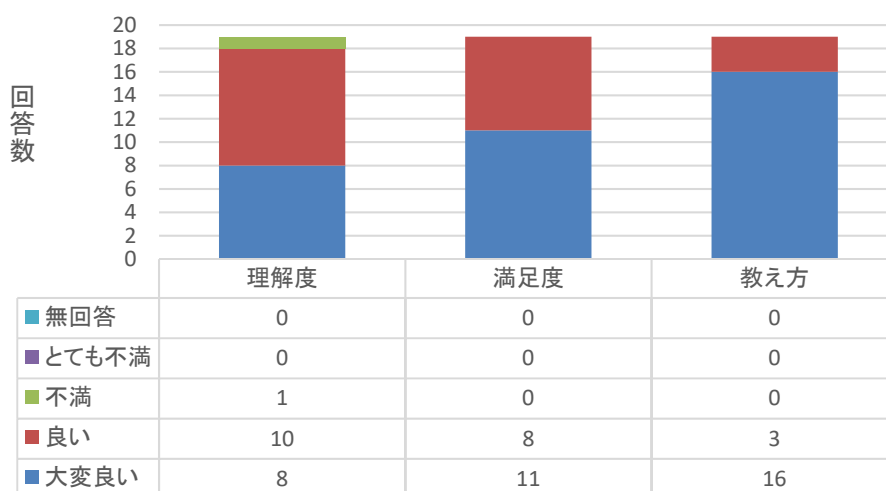
(4) 年齢

| 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 無回答 | 合計 |
|------|------|------|------|------|-----|----|
| 2 | 8 | 5 | 2 | 2 | 0 | 19 |

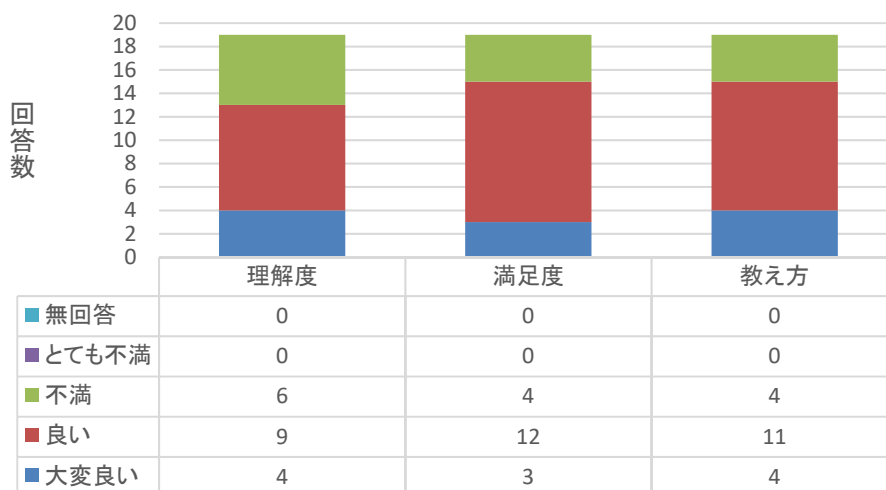
(5) 講義・実習について



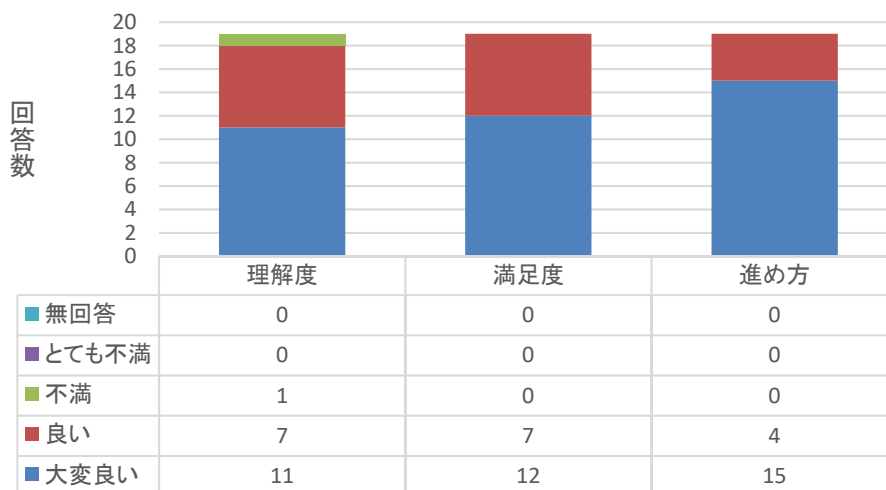
5. 講義・実習について(講義2)



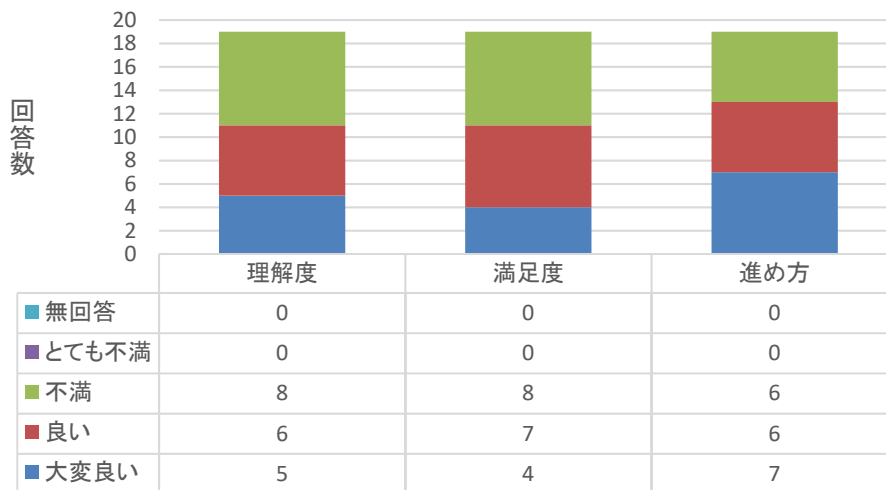
5. 講義・実習について(講義3)



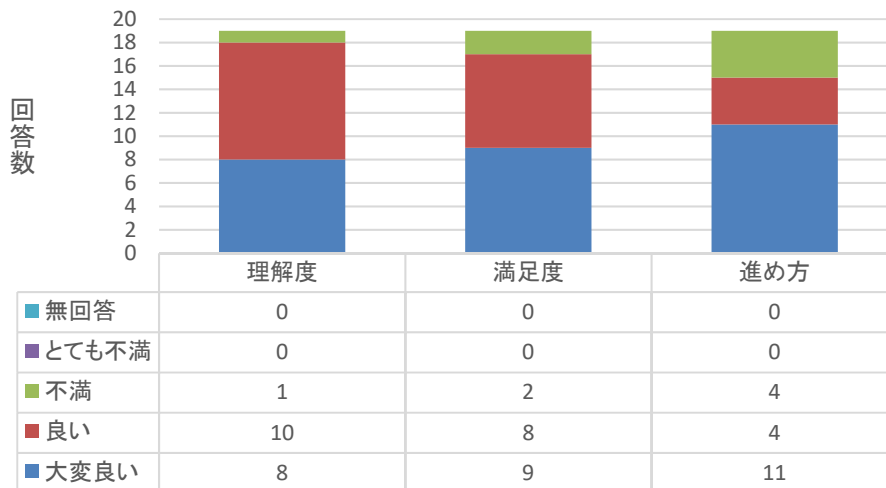
5. 講義・実習について(講義4)



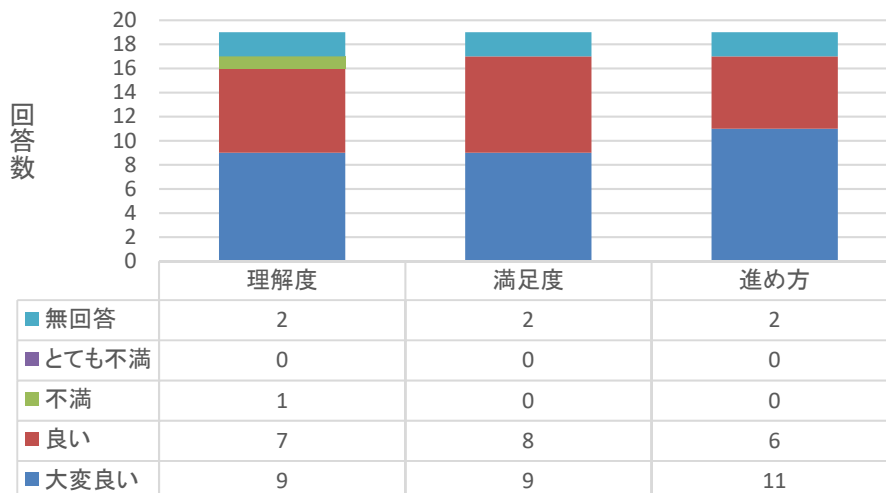
5. 講義・実習について(実習1)



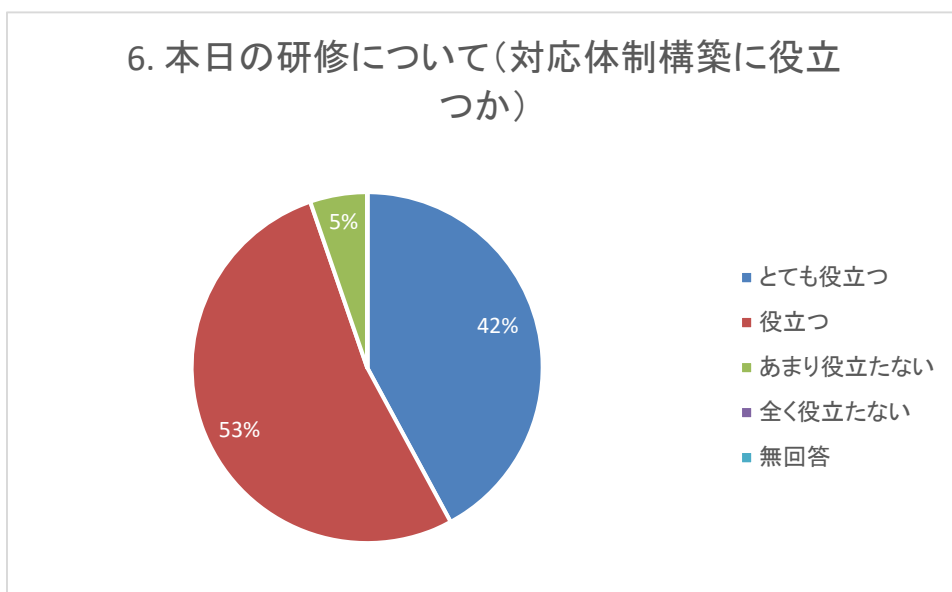
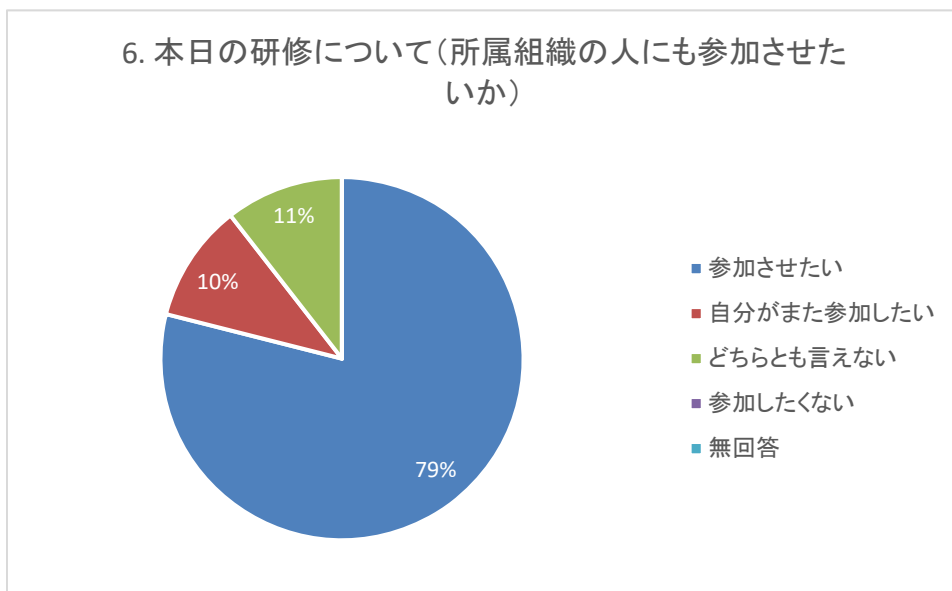
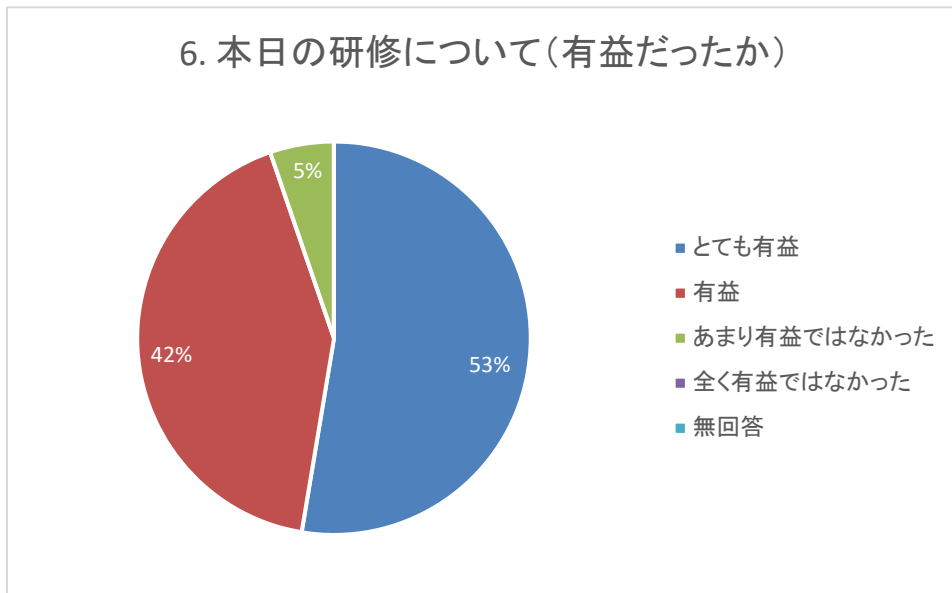
5. 講義・実習について(実習2)



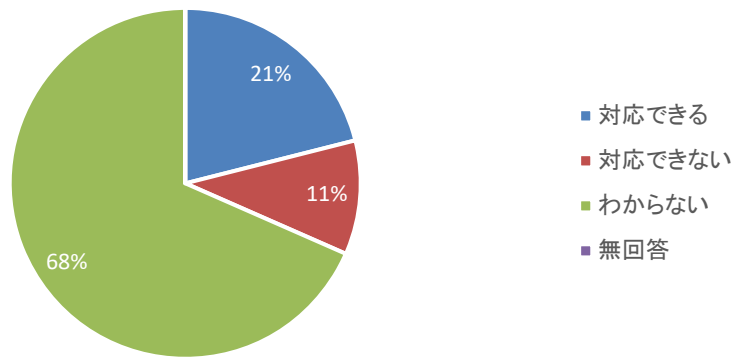
5. 講義・実習について(グループディスカッション)



(6) 本日の研修について

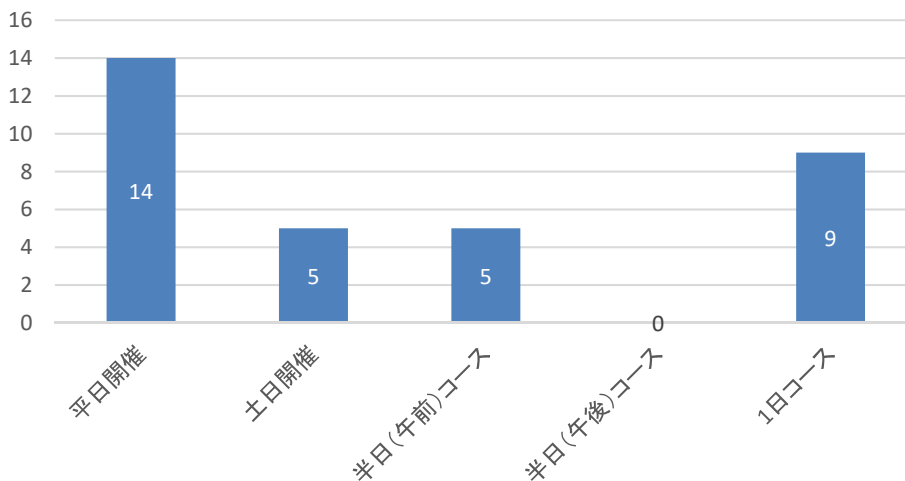


6. 本日の研修について(事故発生時に対応できるか)

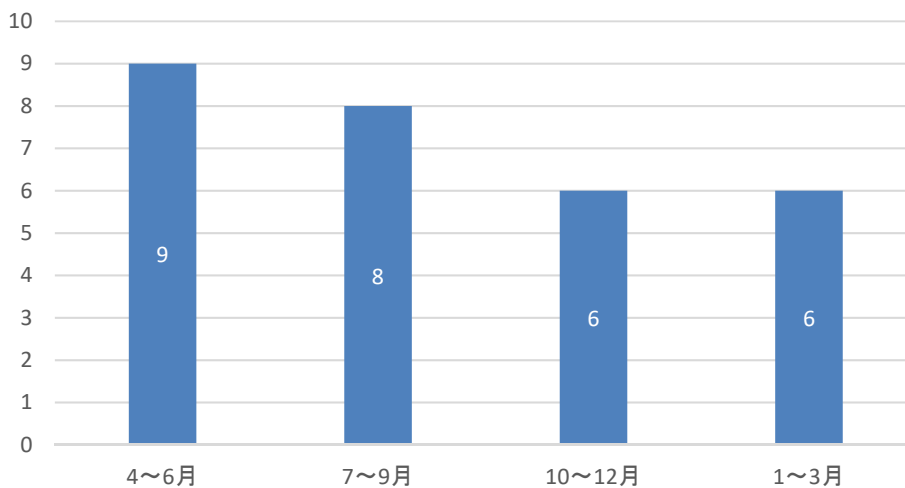


(7) 研修の開催期間・開催時期・開催方法について(複数回答可)

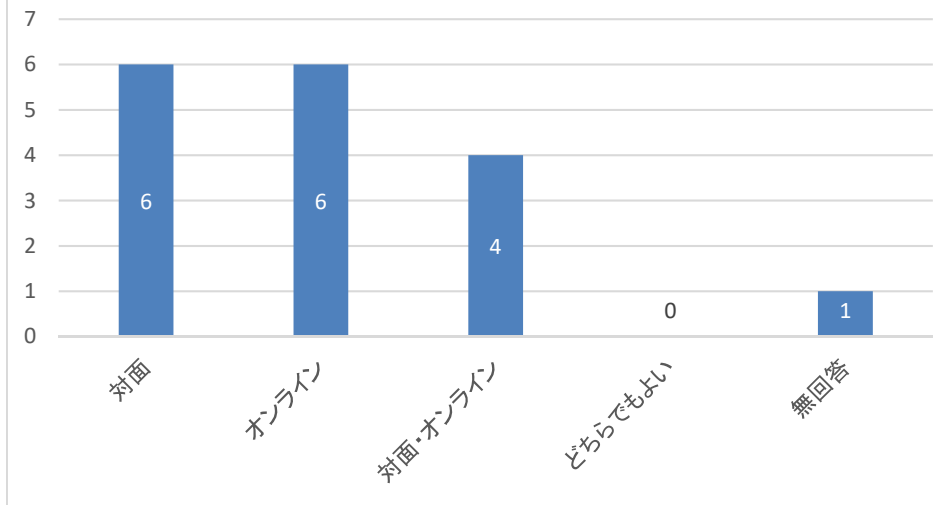
7. 今後の研修会に関する希望(開催期間)



7. 今後の研修会に関する希望(開催時期)

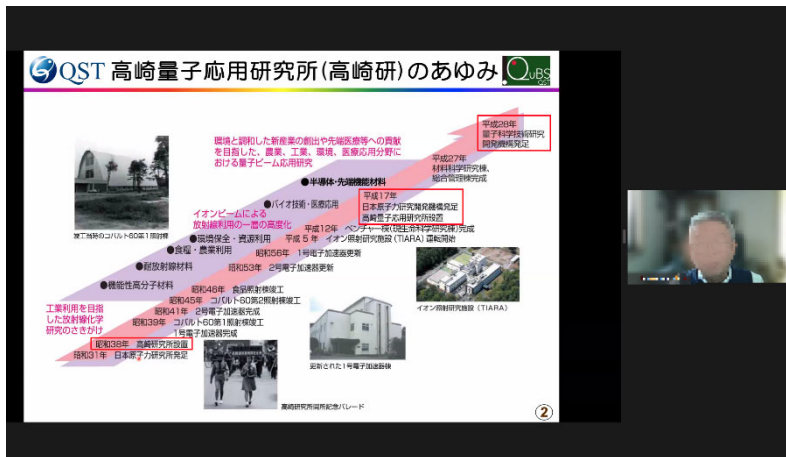


7. 今後の研修会に関する希望(開催方法)



添 付 資 料 2

研修実施状況



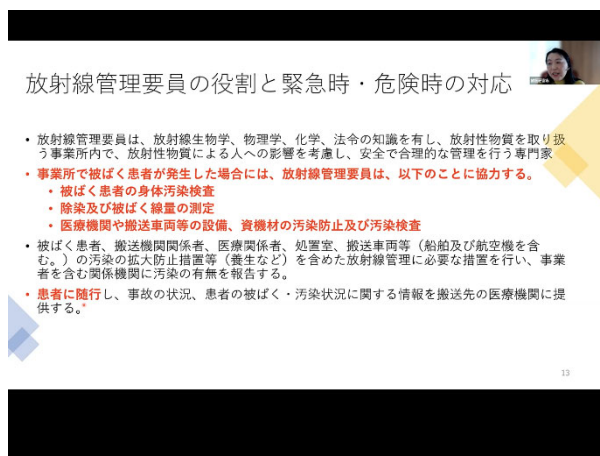
講義 1



講義 2



講義 3



講義 4



実習 1 (測定実習)



実習 2 (医療コース)



実習 2 (搬送コース)



グループディスカッション